

# 中学生、米国で学習・交流

● 教育部 学校教育課  
81-1214

昨年9月30日から10月8日までの間、未来を担う市の中学生22人がアメリカ合衆国のワシントンD.C.とオハイオ州マンスフィールド市に行ってきました。

ワシントンD.C.ではリンカーン記念堂や国会議事堂、国立航空宇宙博物館を訪れ、アメリカ建国の歴史と文化に触れました。姉妹都市マンスフィールド市では、ホームステイしながら現地の学校を訪問し、生徒と交流しました。

今回は、研修生の感想の一部を抜粋して紹介します。



**変わった自分**

ホストファミリーの方たちと何とか会話をしてみると、とてもフレンドリーで真剣に話を聞いてくれるので、とても嬉しくなりました。おかげで、少し人見知りや話さない性格の自分から積極的にフレンドリーな性格の自分に変わる事ができました。



研修生リーダー  
大越中学校 3年  
坪井 葵 さん

## 国境を越える感覚

ホストファミリーの方々や出会った方々が、易しい英語で伝えようとしてくれたり、日本語に翻訳して話してくれたりなど、人の優しさにたくさん触れました。



研修生サブリーダー  
船引中学校 3年  
鴻野 幸恵 さん

また、お金、家の構造、食文化、広い農地など文化の違いを学びました。英語が日々聞き取り易くなる感覚を経験できました。



研修生サブリーダー  
船引南中学校 2年  
三輪 ひなの さん

## 学んだことを活かしたい

たくさん学んだことを学べた派遣研修でした。

①アメリカの家庭での食事は主食、水、果物が基本。②一年を通して、毎日シャワーを浴びるわけではないようだ。③アメリカの義務教育期間は高校までの十二年間。④聖書を使った授業があり、賛美歌を歌う。⑤家の中の靴の脱ぎ履きは家庭によって違う。

以上のような生活や文化の違いが分かりました。



研修生サブリーダー  
大越中学校 2年  
白石 真也 さん

## 日米それぞれの良さ

「相手の質問にYESかNOで答え、簡単でも質問をする。」この方法で、中程度の英語でコミュニケーションが取れると分かりました。アメリカ人の積極性を見習った結果です。

米国人のマナーがしっかりしていること、土産の味噌汁が喜ばれたり、日本車が多く走っていたりしたこと、日米それぞれの良さが分かり、新たな目標を持つことができました。



滝根中学校 2年  
延松 聖仁 さん

## Favorite America

アメリカ人は明るく親切で人を笑わせることが好きなのだと感じました。皆を明るく出来る人になりたいと思いました。

街の建築物は開放的で、建物からも自由を感じ取れました。英語を話すスピードや英語を分かった振りをしないほうが良いことを学び、視野が広がりました。



船引中学校 3年  
白石 太智 さん

## 経験から学んだこと

アメリカの文化やマナーを実際に見聞きして学ぶことができました。中でも印象的だったのは「チップを払う」ということが感謝の気持ちを持って示すことだという考え方です。

また、人々の社交性に富む姿から人と接する時は、広い心を持って笑顔でいることが大事だということも学びました。

この楽しく貴重な経験を活かすために、外国の方々と交流する機会があれば、積極的に会話をできるように自分の英語力を高めたいと思いました。



常葉中学校 3年  
浦山 夏美 さん

## 世界との出会い

アメリカ人は上手く英語を話せない私を待ってくれたり、思うように伝えられず落ち込む私を励ましてくれたりしました。そのため派遣団の仲間を見習って勇気を出し積極的に話しかけるとホストファミリーと友達になれました。今後に学ばべきことが分かり、英語を活かした進路を考えることができました。